

幸せの歌



枝幸町新規就農者誘致促進セミナー
酪農経営を目指す方々との意見交換会の様子

JA宗谷南

2018NEN
8GATUGOU
~SEASON64~

系統利用へのお礼と協力のお願い

宗谷南農業協同組合 代表理事組合長 向井地 信之

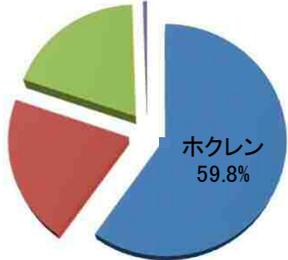
国際貿易交渉においては、日本はTPP 11協定への米国復帰を願っているが、米国は二国間交渉を求める姿勢であり両者の隔たりは大きい状況である中、日EUはEPAに署名をし、来年早々の発効によりTPPと同水準の農産物の市場開放に踏み出そうとしており、日本の農業はますます国際競争が激化していく事が予想され、更に国際競争に負けない農業が必達となる時代が来ます。

その競争に負けない為にも、組合員個々の「農業所得20%増大」を目標とする「力強い農業」の実現を目指し、また組合員皆様の協力による「系統結集」は、農協の財務基盤の強化を図り、盤石な組合の組織運営へとつながり、しいては強固な日本農業にもつながって行くものと確信しております。

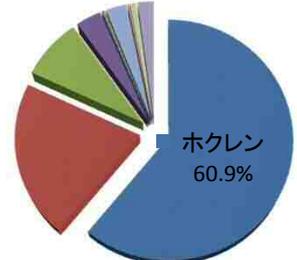
とりわけ、今回の「くみあいだより」においては、日頃組合員の皆様に対し、系統利用のお願いを申し上げて参りましたが、お陰様で組合員・関係機関のご理解とご協力により、下記のとおりの実績となりました事を報告させて頂き、あらためてお礼申し上げます。有難うございました。

平成26年6月から農協規制改革が叫ばれてすでに4年が経ち、いよいよ政府も本格的に加速して来ますが、より一層の「力強い農業」を目指すため、現状に甘んずることなく組織力強化の為に、今以上の「系統結集」が重要と考えております。ついでには、系統利用の推進には今後も職員一同精進して参りますので、今以上のご理解とご協力を賜りたく宜しくお願い致します。

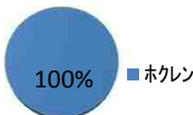
平成30年度 肥料シェア率



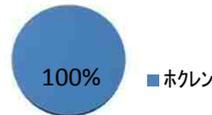
平成30年度 配合飼料シェア率



役員における系統利用率



役員における系統利用率



ソレフテオ視察団 ファームAYNIを視察



6月28日～7月2日に、枝幸町の姉妹都市である、スウェーデン・ソレフテオ市から市議会議長等5名が来町され枝幸交流30年記念行事に出席されました。
その中で、6月30日に枝幸町視察として、(株)アグリサポート枝幸・ファームAYNIを訪れ施設内を見学しました。
JA宗谷南寺前参事、(株)アグリサポート枝幸、安部専務が対応し、今年の3月から稼働した事や、施設内の機械類、乳牛の管理方法等について丁寧に説明して頂きました。
特に搾乳ロボットを初めて目にし、最新の牛乳の生産現場に驚いているようでした。

枝幸町共進会

8月3日、歌登乳牛共進会場では、第12回枝幸町乳牛共進会が開催されました。今年は8戸25頭の出品があり、審査員には、オールジャパンプリーダーズサービス(株)営業部営業課の前田直樹氏が務め、乳牛の資質を競い合いました。

各部優劣のつけ難い乳牛たちに、枝幸町の乳牛改良の高さを感じながらも最高位賞を選んで頂き、未經産の部では、内田喜久男さん出品の3部「ハッピーライン レジエツト チップ」が、経産の部では、小椋義則さん出品の8部「サンディプレイン ファイバー クスター」が輝きました。

各部上位入賞牛は、8月25日開催の道北共進会へ出品します。(次号に成績掲載)



枝幸町乳牛共進会 各部1位

部	出品者	名	号
1部	内田 喜久男	ウチ プロフィット	ソロモン マークイス
2部	赤坂 一弘	マタドーア	ソロモン シルキー サラ
3部	内田 喜久男	ハッピーライン	レジエツト チップ
4部	内田 喜久男	ウチ デリシヤス	ハーゲン
5部	小椋 義則	オムラ	ドーマン エミール
6部	澤田 和人	JC モントレー	ロブスト シャーレツテイ
7部	小椋 孝則	HL エレガンス	マウンテン シド
8部	小椋 義則	サンディブレイン	ファイバー クスター
9部	関口 真也	M. F	トライユーン チップ
10部	高橋 慶大	ボールスター	アフターショツク タウン

部	賞	出品者	名	号
未經産牛	最高位	内田 喜久男	ハッピーライン	レジエツト チップ
	準最高位	小椋 義則	オムラ	ドーマン エミール
経産牛	最高位	小椋 義則	サンディブレイン	ファイバー クスター
	準最高位	関口 真也	M. F	トライユーン チップ



サンディブレイン ファイバー クスター



ハッピーライン レジエツト チップ



中山間役員会

アライグマ対策

8月8日、酪農振興センターにて中山間枝幸集落の役員会が開かれ、宗谷総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係の八百里子さんを招きアライグマの対策について話し合われました。

近年アライグマの農業被害は拡大しており、平成28年の北海道の被害額は、90,551千円で、そのほとんどは畑作物ですが、牛に関連する被害は997千円となっている状況です。また、アライグマの捕獲頭数についても、平成25年は5,317頭でしたが、平成28年には2倍以上の12,354頭が捕獲されています。

枝幸町においても平成25年は30頭の捕獲実績でしたが、平成29年は83頭の捕獲実績があり、アライグマの生息頭数が増えてきているのが伺えます。

アライグマ対策の中でも有効なのは箱ワナという事で、アライグマはワナに対しては、警戒心が弱く箱ワナで十分な捕獲効果があります。しかし、アライグマは、外来生物法に基づく駆除・防除が必要ですので、枝幸町農林課までご一報ください。



「若者の夢が叶う酪農郷・枝幸町」



8月22日、歌登フォレストピアホールにて、枝幸町農業推進連絡協議会主催による、枝幸町新規就農者誘致促進セミナーが開催され、160名が参加しました。

枝幸町新規就農者誘致促進セミナー演目

基調講演	「我が国の酪農をめぐる最近の動向」	農林水産省畜産部畜産企画課 畜産経営安定対策室長	星野 和久
演題	「新天地を枝幸町に求めて移転を決意」	就農予定者 廣山夫妻	廣山 辰徳 智尋
演題	「ヘルパーを経て新規就農」	枝幸町風烈布 米田牧場	米田 徹
演題	「枝幸町の新規就農者への支援体制について」	枝幸町農林課副主幹	油矢 雅人
演題	「JA宗谷南の研修制度について」	JA宗谷南営農部営農課長	浜田 和幸
演題	「宗谷南酪農ヘルパー利用組合の体制について」	宗谷南酪農ヘルパー利用組合 組合長理事	石田 幸也
演題	「目指すは新規就農」	宗谷南酪農ヘルパー利用組合	長谷川 泰斗
演題	「支援資金について」	JA北海道信連旭川支所長 JA北海道信連旭川支所融資課長	山口 広道 岡本 将季
演題	「農場リース事業について」	北海道農業公社道北支所次長	木村 一宇
演題	「酪農経営を目指す方々との意見交換会」	パネリスト9名	
演題	「牧場視察」	ファームAYNI、枝幸町公共育成牧場	
終了			

セミナー開会前には、就農研修生である、孫叡さんの長女「孫梓苑さん」と次女「孫梓津郁さん」によるピアノ演奏で開会までの間、美しいピアノの旋律に耳を傾けてもらいました。開会に先立ち、枝幸町農業推進連絡協議会新規就農者誘致促進部会長である、向井地組合長は、「全国的に農業者は減少傾向にあります。規模拡大等により生産量を補っている状況です。しかし酪農・休農が多く補いきれない部分もある中、その一方では、農業に魅力を感じ就農を決意する若者もおります。

現在、当町にも就農を目指し研修中の方がおられますが、当町としては、金銭的な支援ではなく、就農までの事務的な支援、就農後の技術的な支援など将来就農者が立派な経営者としてやっていけるようなバックアップする事で、これを最良な支援と思い取り組んでおります。まったく見知らぬ地域で就農されるわけですから頼るところは農協だと思われてしまいますし、頼られる農協でありたいと思っております。」と挨拶しました。

産経営安定対策室の星野室長より「我が国の酪農をめぐる最近の動向」について、改正畜産経営安定法から、補給金制度や飼料生産型酪農支援事業、乳用後継牛確保に向けた取り組み、酪農経営における労働力負担の軽減を目的とした酪酪事業や畜産クラスター事業、また、国産チーズ競争力強化対策、GAPの取組について説明して頂き、国として酪農を支援、応援していく事を講演していただきました。

続いて、現在帯広川西地区で酪農経営を行っている中で、広大な土地に魅せられ枝幸町へ移住する事を決意した、廣山夫妻より自己紹介を兼ね、廣山幸町に就農する事となった経緯と、就農へ向け支援してくれている関係機関の皆様に向けて感謝を述べ締めくくりました。

廣山夫妻が無事就農出来る日が来るのを待ちしています。



農林水産省
星野室長



廣山智尋さん、廣山辰徳さん



廣山夫妻の発表



孫梓苑ちゃんと梓津郁ちゃんのピアノ演奏



酪農経営を目指す方々との意見交換会の様子

続いて、平成29年度に風烈布に就農した、米田徹さんが、酪農ヘルパーを経て、就農したきっかけや経緯について発表された後、就農当時を振り返り、乳牛の分娩ラッシュと妻の出産が重なり、心身ともに大変な時、地域の方々に助けてもらった経験から、「就農で大事なものは、協調性で、地域との良好な人間関係を築くことが何より大事。」とアドバイスしていました。

その後、「枝幸町の新規就農者への支援体制」として枝幸町農林課油矢副主幹、「JA宗谷南の研修制度について」、JA宗谷南営農部営農課浜田課長がそれぞれ詳細に説明しました。

「宗谷南酪農ヘルパー利用組合の体制について」を、石田組合長が説明し、やりこなすでは無く、やり遂げる事が大事と石田組合長が酪農ヘルパー時代の経験を基に、就農希望者や学生等にエールを送りました。昼食を挟み、午後の部からは、宗谷酪農ヘルパー利用組合の長谷川さんより「目指すは新規就農」と題して、高校生の頃から、畑作農業の道へ進もうと考えていた長谷川さんが、大学卒業後、新・農業人フェアで宗谷南酪農ヘルパー利用組合の石田組合長と出会い、将来は酪農家になる事を決意し、今年の3月に宗谷南酪農ヘルパー利用組合へ就職した経緯と、30歳までに就農する決意を語ってくれました。

続いては、「支援資金について」と題しJA北海道信連旭川支所から、山口支所長と岡本融資課長より、新規就農者への支援資金の貸付に関し、詳細に説明して頂きました。

講演者の最後は、北海道農業公社道北支所の木村次長より「農場リース事業」について、事業を活用した場合の就農までの道のりを説明して頂きました。

会場での最終演目である、「酪農経営を目指す方々との意見交換会」では、北海道農政部生産局の宮田局長、枝幸町農業委員会高橋会長の他、就農研修生や宗谷南酪農ヘルパー利用組合の職員等9名がパネリストとして登壇し、枝幸町新規就農者誘致促進部会員の石田幸也氏がコーディネーターとして司会進行を務め、枝幸町に来る事になったきっかけや、枝幸町の良い所や悪い所など活発な意見交換が行われました。意見交換の後は、(株)アグリサポート枝幸・ファームAYNIと枝幸町公共育成牧場の視察を行い、大規模な牧場に皆興味津々の様子でした。

視察終了後は、歌登グリーンパークのバーベキューハウスにて交流会を行い、充実した一日を過ごしました。



枝幸町公共育成牧場視察



ファームAYNI視察



JA北海道信連講演の様子



北海道農業公社講演の様子



長谷川さん発表の様子

音標小学校

よつ葉乳業㈱で

牛乳の勉強会

7月13日、音標小学校では、よつ葉乳業㈱宗谷工場で工場見学を行いました。青年部も講師として参加し、天候不良による牧草収穫の遅れで、部長を始め3名の参加となりました。

枝幸町で生産された生乳がよつ葉乳業㈱宗谷工場に出荷され、どのように加工され、販売されているのか一連の流れをわかりやすく説明していました。子供たちは、親切丁寧な説明を受け、疑問に思ったことはその都度質問し、熱心に説明を受けていました。



風烈布小学校

キャンプで牛乳からの

バター作り



バターの作り方を教える、JA宗谷南青年部松田部長(左)と真壁副部長(右)

7月21日・22日、風烈布小学校では、「風烈布子ども育成会」主催のキャンプがあり、21日に青年部食育活動としてバター作りが行われ、青年部から7名が参加しました。

バター作りは、牛乳と生クリームをペトボトルに入れて混ぜ合わせ、子供たちは熱心に汗をかきながらペトボトルを振り、バターが出来上がると歓声を上げていました。

子供たちが作ったバターをクラッカーに乗せて試食してみると、子供たちからは、「おいしい」「店で売ってるものよりうまい」と大好評でした。今回の活動は、食育活動の一環として行われましたが、今後に繋がるものとなりました。

サマーフェスタで

乳製品のPR

8月15日、町営歌登サブ球場にて、毎年恒例のサマーフェスタが開催されました。

当日は、JA宗谷南青年部と農協職員総勢14名が牛乳の消費拡大PRとミルクランドグッズの無料配布を行いました。

今回用意した牛乳150セットが無事渡し切れるか不安でしたが、悪天候にもかかわらずたくさんの方にご来場いただき、瞬く間に配布完了しました。



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会



7月2日、平成31年度農業関係予算概算要求に向けた農林水産省との意見交換会を、4～5月にかけて各地区から寄せられた現場の意見を踏まえ、6月の各作目別対策委員会等で決定した、JAグループ北海道の政策提案に基づき行いました。

JAグループ北海道からは道連役員、JA組合長、青年女性組織代表者ら143名が参加し、農協組織基盤、基本農政、水田、畑作青果、酪農畜産の各対策について要望内容を農林水産省に伝え、意見交換を行いました。

今後も持続可能な北海道農業確立に向けて、生産現場の意見をしっかりと国等に伝えて参ります。



JA北海道信連



JAバンク北海道は、特殊詐欺被害が多発している現状を踏まえ、北海道警察と連携し被害防止への取り組みを実施しています。6月に実施した「年金感謝ウィーク」では、JAで年金をお受け取りされているお客様が来店した際、特殊詐欺に関する注意喚起の標語を印刷した「招福ようかん」をお渡ししました。また、ラジオ番組では電話でお金を要求された際に家族や警察に相談することを幅広く呼び掛けています。



ホクレン



ホクレンのオリジナルブランド玉ねぎ「環(※めぐる)」と「真白(※ましろ)」の売り上げの一部が活動に役立てられているコープさっぽろの事業「第11回コープの森植樹祭」が、今年も5月から6月にかけて全道11カ所で開催されました。

環と真白1パック購入ごとに1円を「コープ未来(※あしたの森づくり基金)」に協賛しており、2017年度は、約63万円の実績となりました。



JA共済連北海道



JA共済連では、7月8日に札幌ドームで開催された「北ガスグループ6時間リレーマラソン」に有志34名が参加しました。他の企業も多数参加しており、JA共済連では「ひと・いえ・くるまの総合保障」を掲げ、職員が揃いのTシャツを着て一生懸命走ることで、JA共済を大きくPRしました。今後このような活動を通して多くの皆さんに「JA共済」を知っていただくよう活動していきます。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非「一読ください」。



公共育成牧場

1番草収穫作業

6月の長雨により、全道各地で1番牧草の収穫が遅れている中、公共育成牧場の牧草収穫は例年通り7月中旬に行われた。収穫量はありましたが、今年は、長雨の影響で、ロール牧草を断念し、1番牧草は、バンカーサイロのみとしました。



納涼仮装盆踊り

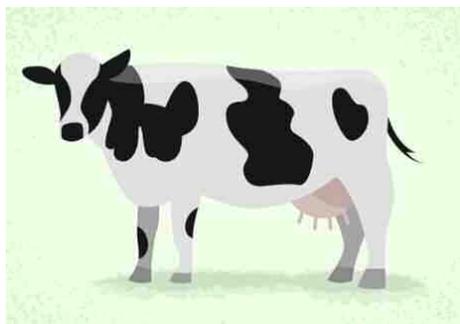
8月13日、枝幸町役場前にて納涼仮装盆踊り大会が行われ当農協から有志5名が参加しました。今年は、マイケルジャクソンのスリラーをモチーフに、お盆らしく見た目が怖いゾンビ等に扮装し、力いっぱい踊り会場を盛り上げました。

結果は堂々の4位入賞を果たし「来年は優勝を目指し頑張ります」と5名が決意を述べました。

(写真左から、経済部油脂燃料課・藤原洸、営農部支所営農課・飯田達也、管理部管理課・浦谷正憲、金融共済部金融課・山田陽介、営農部営農課・野澤隼希)



新採用職員紹介



氏名：宮脇 真梨子
所属：経済部 生産資材課
出身地：枝幸町

この度、8月より経済部生産資材課に配属になりました。

初めての事ばかりで、皆様にはご迷惑をお掛けすることも多く、ご指導頂く事もあると思いますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

編集委員

浦高森滝川野村
谷本川口合澤田
正等忠直直隼太
憲幸也樹希